～ふくしまの歴史と文化財～

文字摺通信

第　１１７　号
２０２６年　８月　１日
発行:文字摺歴史文化社

１０年以上も前に、こんな企画展を実施しました

「戦後70年～戦争を見つめる　平和に感謝する～」

教員を退職後に務めた福島市史編纂室で、毎年市内の施設を借りて、テーマを決め、収蔵資料を使った企画展をしてきました。平成２７年は８月７日から９月１０日まで福島市大町のチェンバおおまち、で標記の企画展を開催しました。市史編纂室が収蔵する資料ですから、実物資料はほとんどなく、文書や新聞、写真などを中心とした展示です。５つの中テーマを設定し、解説文を付け、一点ごとのキャプションには簡単な説明文を付けました。展示内容は次の通りです。

①【開戦～このように報じられました～】

1931（昭和６）年の満州事変以来、中国での戦争は次第に拡大していきました。そして、1941（昭和 16）年１２月８日、日本はアメリカ・イギリスとも戦争状態に入り、太平洋戦争が始まりました。戦争がどのように報じられたのか。国民はどのように知らされたのか。“今の眼”でお読みください。

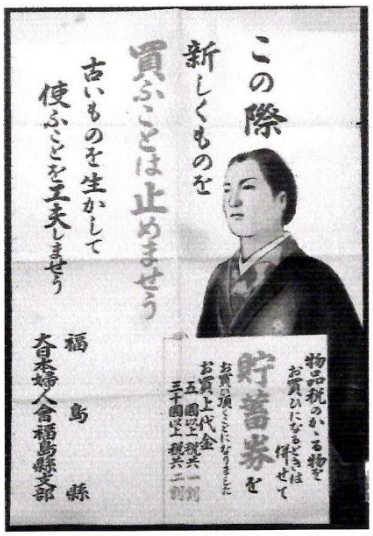
《展示資料》〇「読売新聞」昭和 16 年 12 月９日（複製）　〇「東京日日新聞」昭和 17 年１月１日　〇「福島民報」昭和１７年１月７日　〇「福島民報」昭和１７年 11 月１日

②【銃後の生活～欲シガリマセン　勝ツマデハ～】

戦線の拡大に伴い、資源や食糧が次第に不足し、人々の日常生活は物心ともに窮屈になっていきました。新聞報道を見ても、生活の隅々まで戦争の影が忍び寄っていたことがそれぞれの記事から感じられます。ここではまた配給制度や金属回収に関する資料を展示します。銃後の生活がどのようなものであったのか、思いをめぐらせてください。

《展示資料》

〇「大日本婦人会ポスター」　〇「家庭用砂糖配給所看板」
〇「家庭用飯米配給通帳」　〇「育児用乳製品購入票」
〇「優良多子家庭調書」　〇「銃後後援会絵葉書」
〇「補助貨回収ニ関スル件」　その他



「大日本婦人会ポスター

③【村葬～兄ハ無言デ還ッテキマシタ】

このコーナーは、①徴兵制度、②入営、③戦死、④村葬、の４つの小テーマから成っています。“死”はどのような場合でも理不尽なものです。その理不尽さがベルトコンベアに載せられて運ばれてくる仕組みが①～④の過程です。自らの意思ではそのベルトコンベアから降りられない状況が構築された社会になっていました。

《展示資料》　〇徴兵適齢届　〇戦没者名簿　〇村葬次第　〇弔辞
〇写真「村葬」　〇写真「万歳三唱に送られて」　〇写真「出征兵士とその家族」